



FXトレーダーを苦しめる 「ブレイクアウトのダマシ」その正体

なぜ、完璧なエントリーが「全戻し」されるのか？

誰もが経験する「完璧なセットアップ」の罠



- ✓ 終値で水平線をキレイにブレイク
- ✓ ダウ理論もバッチリ
- ✓ 通貨強弱も一致
- ✓ 「よし！これは乗るしかない！」

FXをやっている人なら、一度はこの「勝ち確」に見える瞬間を経験したことがあるはずです。
しかし、この自信満々のエントリーが悲劇の始まりだったりします。

突如訪れる「全戻し」という絶望



ダマシ
全戻し

エントリーした直後、価格は逆行。陰線で全戻しされ、長い上ヒゲのピンバーが残る。

「えっ、なんで!？」という混乱。実はこれ、不運や偶然ではありません。

条件が足りていない「必然」の結果なのです。

「ブレイクした」と「伸びる」は別問題

理想のブレイク



ダマシの正体



ブレイク自体はしている。しかし、それは「祭りの最後の花火」のようなもの。
パッと上がって終わり。継続するエネルギーが残っていないのです。

ダマシの原因は、「抜けた」という事実だけで判断してしまうこと。
継続するかどうかを見極める必要があります。

ダメシを見抜く「4つの致命的な欠落」



1. 値幅の枯渇
すでに出尽くしている



2. 強弱差の不足
綱引きの状態が拮抗



3. 上位足との逆行
日足の壁



4. 流動性の欠如
参加者がいない時間帯

これらはランダムに起きるのではなく、共通する失敗パターンがあります。
一つずつ解説していきましょう。

パターン①：値幅がすでに出尽くしている



4時間足 - 4H

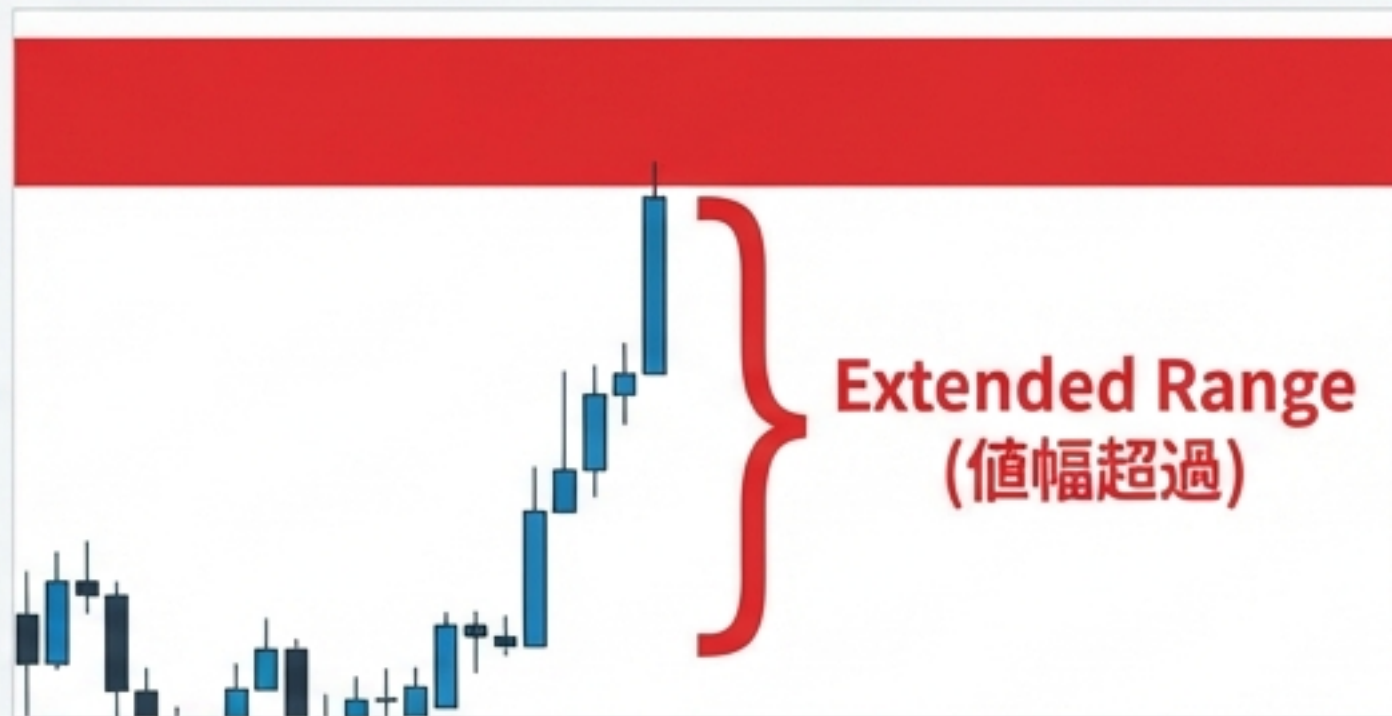


4時間足では「まだまだ伸びそう」に見える。

Zoom In
vs.
Zoom Out



日足 - Daily



しかし日足で見ると、直近の高値圏にいたり、すでに当日の値幅を消化済みだったりします。

1時間足で100pips上昇後のブレイク。しかし日足では既に200pips動いている。
これ以上は「利確圧力」にぶつかるだけです。

「まだ伸びるか？」ではなく「現実的にどこまで伸びられるか？」

パターン②：通貨強弱に明確な差がない

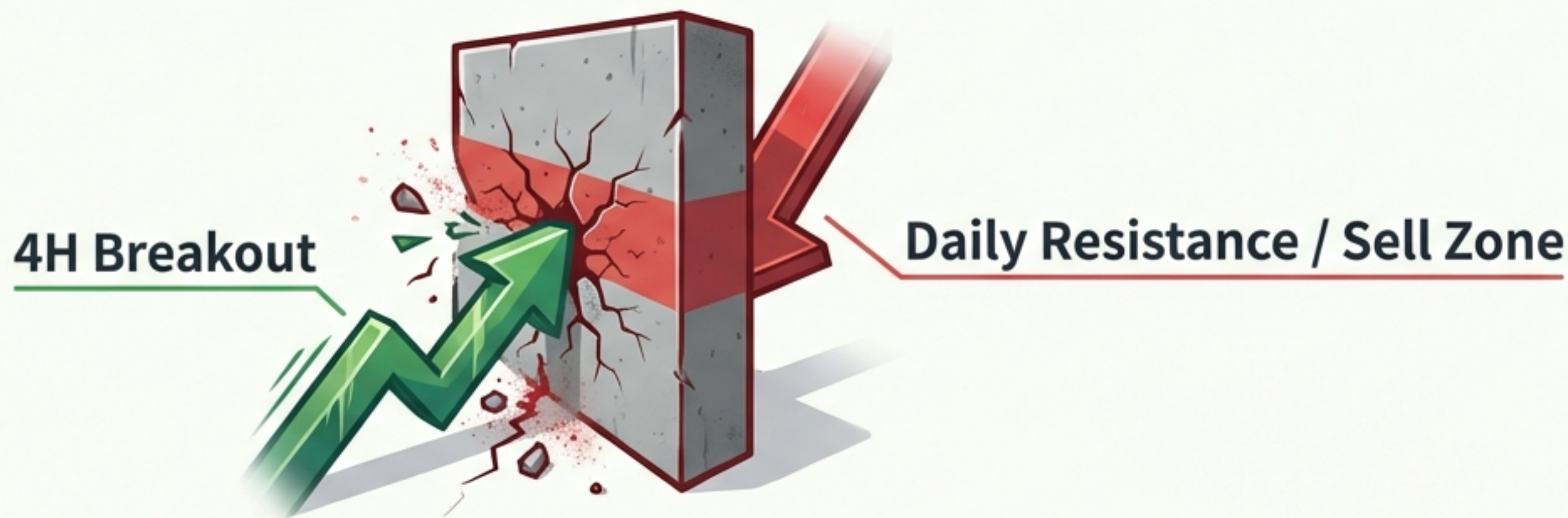
方向が合っているだけでは不十分です。「やや強い vs やや弱い」程度の差では、綱引きで相手をグッと引っ張るような推進力が生まれません。



通貨強弱は方向確認ではなく、エネルギー差（推進力）を確認する道具です。
明確な差がある時だけ狙いましょう。

パターン③：上位足と逆行している

4時間足の完璧なブレイクが、日足の「戻り売りポイント」や「レンジ上限」だったら？
スイングトレーダーが待ち構えている場所で勝てるわけがありません。



「日足で入れないなら見送る」

このルールを守るだけで、ダマシの半分は消えます。

パターン④：流動性の低い時間帯

東京時間の終盤など、参加者が少ない時間帯のブレイクは失速しやすい。
なぜなら、価格をさらに推し進める「追従者」がいないからです。



Tokyo (End)

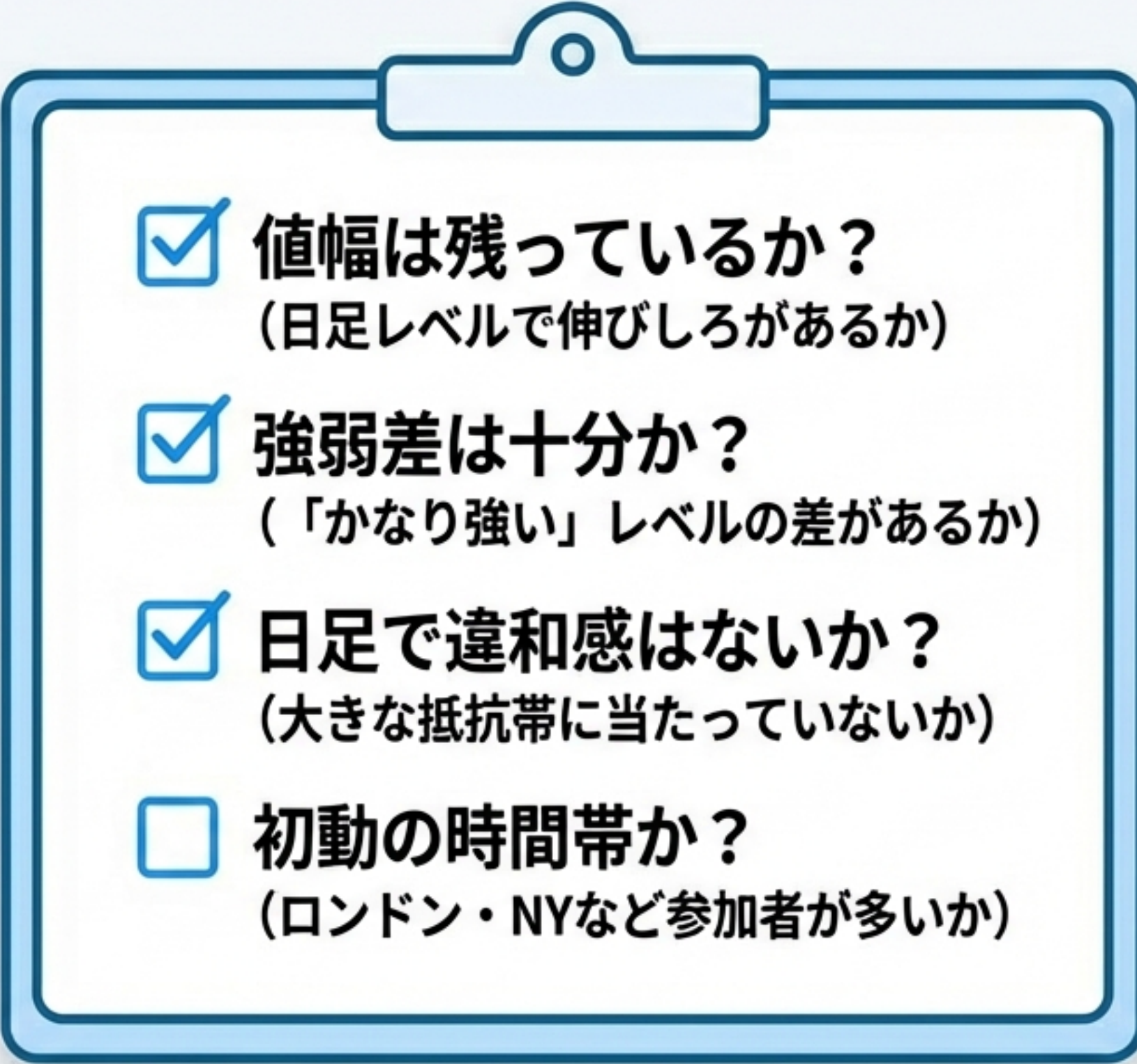


London Open

NY Open

世界中のトレーダーが参加するロンドンやNY時間の初動を狙うこと。
参加者が多ければ、ブレイク後の継続性が高まります。

エントリー前の「No-Go」チェックリスト

- 
- ☒ 値幅は残っているか？
(日足レベルで伸びしろがあるか)
 - ☒ 強弱差は十分か？
(「かなり強い」レベルの差があるか)
 - ☒ 日足で違和感はないか？
(大きな抵抗帯に当たっていないか)
 - ☐ 初動の時間帯か？
(ロンドン・NYなど参加者が多いか)

「必要経費」と「ムダ金」の違い

条件を全て満たしていても負けることはあります。それはトレードのコストです。

しかし、条件を無視して負けるのはただの浪費です。

大事なのは「条件を揃えて待つ」こと。焦って飛び乗る必要はありません。

必要経費 (Cost of Business)

条件**クリア** + 損失 = **OK**

避けることのできないビジネスコスト。

避けられた損失 (Waste)

条件**無視** + 損失 = **NG**

ルールを破ったことによる浪費。



「抜けた」かどうかより、「続く」かどうか



僕も昔はブレイクしたら即座に飛び乗って、資金を減らしてきました。
でも、このフィルターを通すだけで、勝率は明らかに変わります。

無理は禁物。自分のペースで、条件が揃う「その時」を待ちましょう。
あなたのトレードがうまくいくことを応援しています！